

第 1・2 学年 音楽科

1 学年の目標

- (1) 楽しく音楽にかかわり、音楽に対する興味・関心をもち、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
- (2) 基礎的な表現の能力を育て、音楽表現の楽しさに気付くようにする。
- (3) 様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を育て、音楽を味わって聴くようにする。

2 指導の要点

A 表 現	歌唱	<p>ア 範唱を聴いて歌ったり、階名で模唱したり、暗唱したりする。</p> <p>イ 歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いをもって歌う。</p> <p>ウ 自分の歌声及び発音に気を付けて歌う。</p> <p>エ 互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う。</p> <p>〔歌唱教材〕…共通教材の4曲を含めて、斉唱及び輪唱で歌う楽曲</p> <p>〔共通教材〕…第1学年 「うみ」 (文部省唱歌) 「かたつむり」(文部省唱歌) 「日のまる」 (文部省唱歌) 「ひらいたひらいた」(わらべうた)</p> <p>第2学年 「かくれんぼ」(文部省唱歌) 「春がきた」(文部省唱歌) 「虫のこえ」 (文部省唱歌) 「夕やけこやけ」中村雨紅作詞 草川 信作曲</p>
	器楽	<p>ア 範奏を聴いたり、リズム譜などを見たりして演奏する。</p> <p>イ 楽曲の気分を感じ取り、思いをもって演奏する。</p> <p>ウ 身近な楽器に親しみ、音色に気を付けて簡単なリズムや旋律を演奏する。</p> <p>エ 互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する。</p> <p>〔器楽教材〕…既習の歌唱教材を含めて、主旋律に簡単なリズム伴奏や低声部などを加えた楽曲</p>
	音楽づくり	<p>ア 声や身の回りの音の面白さに気付いて音遊びをする。</p> <p>イ 音を音楽にしていくことを楽しみながら、音楽の仕組みを生かし、思いをもって簡単な音楽をつくる。</p>
B 鑑 賞	<p>ア 楽曲の気分を感じ取って聴く。</p> <p>イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴く。</p> <p>ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付く。</p> <p>〔鑑賞教材〕…ア 我が国及び諸外国のわらべうたや遊びうた、行進曲や踊りの音楽など身体反応の快さを感じ取りやすい音楽、日常生活に関連して情景を思い浮かべやすい楽曲</p> <p>イ 音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りやすく、親しみやすい楽曲</p> <p>ウ 楽器の音色や人の声の特徴を感じ取りやすく親しみやすい、いろいろな演奏形態による楽曲</p>	

共通事項	「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。
	<p>ア 音楽を形づくっている要素のうち、次の（ア）及び（イ）を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ること。</p> <p>（ア）音色、リズム、速度、旋律、強弱、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴付けている要素</p> <p>（イ）反復、問いと答えなどの音楽の仕組み</p> <p>イ 身近な音符、休符、記号や音楽にかかわる用語について、音楽活動を通して理解する。</p>

3 内容の取り扱い

- (1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、音楽との一体感を味わい、想像力を働かせて音楽とかかわることができるよう、指導のねらいに即して体を動かす活動を取り入れる。
 - (2) 歌唱の指導については、相対的な音程感覚を育てるために、適宜、移動ド唱法(※1)を用いる。歌唱教材については、共通教材のほか、長い間親しまれてきた唱歌、それぞれの地方に伝承されているわらべうたや民謡など日本のうたを含めて取り上げるようにする。
 - (3) 各学年で取り上げる打楽器は、木琴、鉄琴、和楽器、諸外国に伝わる様々な楽器を含めて、演奏の効果、学校や児童の実態を考慮して選択する。第1学年及び第2学年で取り上げる身近な楽器は、様々な打楽器、オルガン、ハーモニカなどの中から学校や児童の実態を考慮して選択する。
 - (4) 音遊びや即興的な表現では、リズムや旋律を模倣したり、身近なものから多様な音を探したりして、音楽づくりのための様々な発想ができるように指導する。つくった音楽の記譜の仕方について、必要に応じて指導する。拍節的でないリズム(※2)、我が国の音楽に使われている音階や調性にとらわれない音階などを児童の実態に応じて取り上げる。
 - (5) 「音符、休符、記号や音楽にかかわる用語」については、児童の学習状況を考慮して取り扱う。
- ※1…各長調の主音をドとし、各短調の主音をラとした階名唱。例えばへ長調の場合、ファをドとして歌う。
- ※2…一定した拍や拍子感のないリズム

4 評価の観点の趣旨

観 点	第1学年及び第2学年
音楽への関心・意欲・態度	楽しく音楽にかかわり、音や音楽に対する関心をもち、音楽表現や鑑賞の学習に自ら取り組もうとする。
音楽表現の創意工夫	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いをもっている。
表現の技能	音楽表現をするための基礎的な技能を身に付け、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりしている。
鑑賞の能力	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲や演奏の楽しさに気付き、味わって聴いている。

5 単元の配列例

- (1) [共通事項] は、表現及び鑑賞に関する能力を育成する上で、共通に必要なものであり、表現及び鑑賞の各活動において十分な指導が行われるように工夫する。
- (2) 国歌「君が代」は、いずれの学年においても歌えるよう指導する。
- (3) 生活科などとの関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにする。特に第1学年においては、幼稚園教育における表現に関する内容などとの関連を考慮する。
- (4) 道徳の時間などとの関連を考慮しながら、音楽科の特質に応じて適切な指導をする。